

今月のコラム

園芸は感動、健康、幸福である



株式会社 グリーンプラザ
代表取締役 石川 昇

猛暑が続いた夏から秋へ、紅葉の季節になり私達の業界も秋風が吹き、明るい話題が少ない状態であります。このような現状を考えると政治や社会も一因ではあるが、園芸業界として反省すべき点も数々あるのではないかと。

例えば、園芸ブームと言われた時に出現した異業種の参入、一般家庭ではなかなか育ちにくい安易な商品、販売そして撤退、つまり粗悪商品的なもので実際花好きの愛好家や研究者が発案したものではなく、その多くはデスクプランで生まれたものが多い。

価格競争から品質重視が除外され特に新興国の生産品に問題点が多く感じられる。耐寒性のない陶器鉢、すぐ腐敗する木製品や金属類など思い浮かぶ、ガーデニングの本場英国で販売されている、マイナス 10℃ ~20℃の屋外で耐える陶器鉢や百年でも大丈夫なチーク材の木製品などでその品質の差は歴然である。

園芸生産者にも考えていただきたい。それは生産略歴と使用用土の明記を提案したい。なぜならばエンドユーザーで観賞時に問題が多く発生します。良い用土は排水性、通気性、保肥性、保水性があるのが望ましいが、用土の悪化が目立っております。そして液肥だけで生産され、そのまま観賞していると、半月たつと弱々しくなる植物が多いのです。生産者は出荷時が一番植物の見栄えがする時であり、一ヵ月後の状態はどうでも良く二の次なのです。出荷—市場—販売店—エンドユーザー、商品が流通するたびに品質が低下していきます。食品業界では使用原材料名と栄養成分表示が当たり前のように商品に標記されており、まじめな園芸生産者はこのように作っていますと胸を張ってアピールして、品質重視で差別化を図る人がいてよいのでは、そして販売店も賛同し支持すべきではないか、一部の商品は植込材としてオガクズや産業廃棄物もどきのようなもので植えておるのは残念です。

生産効率や運賃の問題などのコストダウン、そして技術向上などで鉢のサイズが小さくなってきています。生産者は灌水設備がゆきとどいた施設で生産され出荷されますが、販売店の多くはそれほど管理技術と施設がない為、店頭でのロスが多く発生しております。欧米の鉢のサイズを比較しても我が国は小さめで、特にバラなどの花木類、果樹苗類、目立ちます。販売店で在庫していても十分成育するサイズが望ましく、すぐ根づまりする鉢サイズでは弱ります。生産者は手元を離れるともう知らないということではなく、販売店でも一般家庭でも安心して信頼される商品づくりを心掛けて頂きたい。

特に流通関係者にももっと品質重視の指導して頂き、売れない、安い、儲からない、のマイナスのスパイラルを改善し、本来あるべき姿に近づきませんか。日本の園芸業界の常識は欧米と比較すると悲しいものがありますね。園芸が社会にもたらすものは、感動や癒し、そして健康、幸福である。その期待を裏切る商品や、愛着が感じられない商品は改善指導すべきである。



カエデ
kaede

世界トップガーデナーによる花と緑の祭典

ガーデニングワールドカップフラワーショー 2012 in JAPAN

世界のトップガーデナーが集まる、ガーデニングによるワールドカップ「ガーデニングワールドカップフラワーショー 2012 in JAPAN」が9月29日～10月21日、ハウステンボスで開催された。

メインとなるショーガーデン部門のテーマは「緑と花による平和と再生への祈り」。12組のガーデナーが、世界平和への思いを込めた作品を制作し、驚きの発想力とそれを実現させる高い技術力を見せつけた。またガーデンの中には、実際に立ち入ることのできる作品もあり、外側からでは分からないような、ガーデナーの細かなこだわりポイントや、気の利いた遊び心を見ることができた。作品の内部を見せることで、来場者それぞれが自分のお気に入りのポイントを発見し、それを分かち合うことができるようになった。作品への理解度が高まり、楽しみ方も広がる、うれしい試みである。

圧倒的な迫力の中にも、計算されつくしたデザインと独創性を持つガーデンが並ぶ中、最優秀作品賞を受賞したのは、マレーシアのガーデナー、リム・イン・チョング氏による作品「目をそらさずに、じっと見つめて」。植物のない「地獄」を表現したコーナーと植物の生い茂った「楽園」を表現したコーナーを「目」をイメージさせる仕切りで区切るという斬新なデザインの作品であった。 <http://www.gardeningworldcup.jp/event/>



最優秀賞の「地獄から『目』を通して見える楽園」と②植物の生い茂った「楽園」



日本の伝統、床の間と庭、家につながる「床の間ガーデン」(石原和幸氏)

新刊 建築緑化の全知識を網羅!

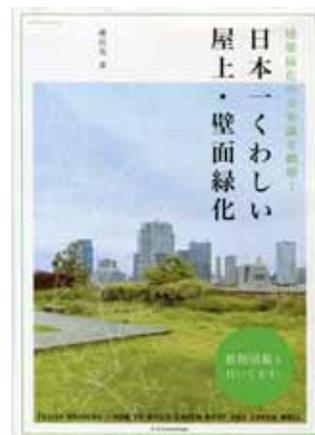
「日本一くわしい屋上・壁面緑化」 藤田茂著

近年急増している壁面緑化に関しては特に書籍が少なく、数多くある緑化手法に対応できていないのが現状である。壁面緑化用の植物特性という点で、同書では、既存の図鑑に記載されていない、新たな視点からの詳細情報をカラー写真を含めふんだんに盛り込んでいるので、参考になる。

屋上・壁面緑化を検討・計画・実践している建築主をはじめ、建築設計、緑化設計、施工、維持管理に携わるすべての人が同書を活用し、都市における屋上・壁面緑化の更なる増加と充実が期待される。

緑化、植物関係者は、建築緑化のバイブルとして是非手許に置きたい1冊である。

藤田茂氏は当会副会長。



B5判 372頁 / 3,780円

申込は事務局のグリーン情報まで。



カエデ
kaede

フラワートライアルジャパン2012秋

コンテスト大賞に豊幸園の「フライングカーペットマム」

9月25~27日の3日間、長野・山梨にまたがる八ヶ岳山麓で、全11会場を結んで開かれた園芸商談会「フラワートライアルジャパン2012秋」には2053名が訪れたが、その中で開催された「フラワートライアルコンテスト」に植物111点、資材雑貨11点がエントリーした。植物部門の最優秀賞には、豊幸園(当会会員)の「フライングカーペットマム レボシリーズ パーシモン」が選ばれた。また、資材雑貨部門では、赤塚植物園の「New Garden Decoration "Origami Steel" made in Italy」が最優秀賞に選ばれた。

<http://www.green-joho.jp/trial/doc/ftcon2012kekka.pdf>

来場者による人気投票は、植物190票で、第1位はブロメリア・ギフの「クリサンセマム スプラッシュシリーズ BG-pot」、資材部門は162票で、第1位は「寄せ植え用ポットセット」(東海化成)であった。



一般投票で第1位のクリサンセマム



一般投票で1位の寄せ植え用ポットセット

明石公園をメイン会場に関西の園芸力を発信

ひょうごまちなみガーデンショー in 明石

9月22日~9月30日の9日間、明石公園、明石駅周辺、明石銀座通りなどをメイン会場として開催された。

兵庫県ではオープンガーデンや、ボランティアによる花のまちづくりが活発に行われており、全国的に見てもその園芸レベルは高い。ガーデンショーの開催は、県内の多くの花と緑の活動団体の誕生を誘発したり、その活動成果の発表の場にもなっている。コンペに出品された作品はいずれもプロ顔負けの完成度で、凝った器や背景のオブジェを含めて魅せる作品が多く、植物は背の高いグラス類や枝垂れるカラーリーフ類などを上手に取り入れた、近年流行りの「草もの」を生かした作品が多く目に付いた。



今年は初の試みとして、県内の農業高校11校による「アグリハイスクールガーデン」を企画、学生による自由な発想の庭が明石公園入り口を飾った

公園内の芝生いっぱい集まった寄せ植えコンペ作品

フロリアード国際コンテスト

日本政府出展が金賞獲得

国際園芸博覧会「フロリアード」が2012年4月5日から開催され、10月7日までの約6カ月間にわたる会期を終えたが、日本国政府出展は、「Feel Japonica Wisdom to live with nature—日本の花を感じよう—自然と生きる知恵」をテーマに、屋内の展示会場で出展参加した。

そして、閉幕に合わせて行われたブース・パビリオン表彰式において、日本国政府出展ブースが国際園芸家協会 国際コンテスト 屋内展示部門の金賞を獲得した。日本の高品質な花きを数多く紹介し、日本ならではの五節句を表現したことが評価された。

<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/kaki/121009.html>





カエデ
kaede

日比谷公園ガーデニングショー

都市緑化フェアと共催

今年で10回目となる「日比谷公園ガーデニングショー2012」が9月29日～10月28日の30日間、日比谷公園を会場に開催された。今年には都市緑化フェア TOKYO と同時開催となり、テーマも緑化フェア日比谷会場の「都市を彩る生命（いのち）の風」に統一。日比谷公園全体に会場を広げての開催となった。コンテストにはプロ・アマ問わずに多数の出品者から、ハンギング、コンテナ、ライフスタイルガーデンの各部門で力の入った作品が寄せられた。

同時期の9月29日～10月14日までは、丸の内仲通りを花で彩る「丸の内仲通りガーデニングショー2012」も開催され、通りをミニガーデンやハンギングなどで飾った。



丸の内仲通りガーデニングショー2012
ガーデンジュエリー大賞
「路地の庭」……………小野盛平さん



ハンギングバスケット部門 金賞
「山粧う」……………橋高千景さん



コンテナ部門 金賞
「瀬戸の夕凧」……………高橋弥生さん

会員紹介

株式会社東和コーポレーション

弊社は、昭和22年創業の、様々な作業に適した作業用手袋の総合メーカーです。

2007年9月には“ガーデニングをより楽しく”をコンセプトに開発した「WithGarden®」シリーズを発売し、以降もガーデニングの様々なシーンに合わせた商品展開を実施し、販売開始以来、これまでに全13種類を発売しております。

これからもお客様のニーズにお応えし、常に安定した品質の商品をご提供し、社会に貢献することに努めてまいります。今後とも東和コーポレーションをどうぞよろしくお願いいたします。



人気の「With Garden®」



本社

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町227
TEL 0942-32-8357 FAX 0942-38-3527
<http://www.towaco.co.jp/>